

第18部

コミュニティ活動支援のためのシステム構築

奥村 貴史, 阪本 裕介

第1章 はじめに

現在のように日本にインターネットが普及していなかった1990年代前半、WIDEでは後に日本社会を変えていくような多くの試みがなされて、活動も拡大していた。しかし、昨今においては、合宿や研究会への参加者も減少しており、新しい参加者も主要研究室からの参加が主体で、多くは卒業、修了と共にWIDEのコミュニティを去ることが珍しくない。

このような事態は、WIDEの研究コンソーシアムとしての活力を失わせる。そこで、WIDEコミュニティにおけるコミュニケーションを活性化し研究活動の触媒となることを意図して、CSAW WGは、名古屋大学河口研究室を主体として開発されたアカデミック用SNSであるACS (Academic Community System)をカスタマイズしたCollaboration Support Architecture for Wide-Community (CSAW)システムの運用を2007年より開始した。

第2章 CSAWサーバの仮想化・PHPバージョンアップ・Twitter連携機能

CSAWシステムは、2008年にサポート終了となったPHP4を用いていたため、PHP5を用いた新バージョンへの移行が、セキュリティ上の懸念であった。また、CSAWが動作している物理的なサーバも4年以上にわたって同一の機器が利用されていたため、ハードウェア障害の発生も懸念されていた。

そこで、2011年度においては、CSAWシステムを今後も

発展的に運用していくことを目的として、これらの課題への対応を行った。前者に関しては、ACSのソースコードをもとにPHP5版のCSAWを試験的に構築し、2011年3月7日から3月10日にかけて行われたWIDE合宿において、本格的な移行に向けたテストとデバッグ作業を行った。

また、同合宿において、WIDEメンバー向けの簡易版Twitter開発についてのBoFが開催された。当BoFはCSAW BoFとして開催されたものではなかったが、WIDEのコミュニケーション基盤についての活動を志向したものであり、CSAW WGの活動と極めて近い関係にあることが分かった。そこで、最終的に、CSAWの機能として、各ユーザのホーム画面からTwitterへの書き込み、閲覧ができる「マイツイート」機能の実装を試みる運びとなった。

これらの作業は東日本大震災の影響により大幅に遅れたが、2011年9月6日からのWIDE合宿において、PHP5に対応したWIDEクラウド版の新CSAWをカットオーバーすることができた。システムは現在も安定して動作しており、WIDEメンバー間の情報共有に供されている。

第3章 おわりに

CSAW WGでは、WIDEプロジェクトにおけるコミュニケーションの活性化を通じた研究活動の促進を目的として、CSAWシステムを開発、運用して来た。しかしながら、活発な利用は一部のユーザーに留まっており、今後、掲示板利用の促進、Member WIKIやmember.wide.ad.jp、bd.wide.ad.jpとの統合を含めた活性化策が望まれる。一方で、協力的なWIDEメンバーの助力もあり、今年度は、長年の懸案としてのPHP5対応、WIDEクラウドにおける

VMを利用した運用体制への切り替え、Twitterとの連携機能の実現を行うことが出来た。

研究コンソーシアムにとって、内部での自由闊達な議論は活発な研究活動を維持していく上での生命線である。CSAWを活用することにより、WIDEメンバーは、同じテーマに関心のある他のメンバーをCSAW上の「コミュニティ（フォーラム）」を通じて簡単に見つけることが出来る。また、WGやBoFのチェアは、手間を掛けずに様々な規模の研究グループを運営することが可能となる。また、新人メンバーに対して気軽に簡便なコミュニケーション手段を提供することも出来る。CSAW WGでは、今後も、WIDEコミュニティにおけるコミュニケーションを活性化し、研究活動の触媒となることを目指し活動を続けていきたい。こうした主旨に賛同して頂けるWIDEメンバーの、積極的な利用を願っている。